

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年12月20日

事業所名 通所支援事業所はなうた (対象者 13名 回答 13名)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	13	0	◎療育スペースは広間や学習室、和室等を備えており定員に対しての広さは確保されています。	◎バギーからおろす時間をずらす等して危険な場面にならないように配慮をしています。
	2	職員の配置数は適切である	12	1	◎確保できています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	11	2	◎子どもに分かりやすく構造化されています。	◎すべてバリアフリーではありませんが、危険箇所は個別で介助をしています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	13	0	◎月1回のケース会議や定期的な会議にスタッフ全員が積極的に参加し、業務改善に努めています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	13	0	◎意見箱の設置も行っています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	13	0	◎HPにて開示している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	0		◎今後、第三者による外部評価を探っていきます。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	0	◎事業所内外部の研修が充実しており、参加できなかった職員にも報告等で共有をしています。	◎OJTの研修内容と法人内部の研修をさらに深めていきたいです。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	13	0		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	12	0		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	13	0	◎ケース会議で意見を出し合っています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13	0	◎個々の発達に応じ固定化しないように工夫しています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	13	0	◎個々の状況や課題に応じ、目的を持って支援ができるように事前のミーティングを行っています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	13	0	◎どちらの活動も取り入れています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	13	0	◎朝礼、昼礼にて必ず前日の反省と本日の支援内容について確認し、役割分担を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	13	0	◎平日は翌日の昼礼時に、長期休暇中はその日の終礼時に振り返りを行い、休みだった職員にも周知しています。	◎平日の支援終了後の振り返りが難しいですが、必ず翌日の朝礼、昼礼で共有しています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	0	◎日誌やケース記録を残し、改善点や重要な箇所にはチェックをしたうえで全員が目を通しています。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	13	0	◎毎月ケース会議にて計画の見直し等を行っています。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	12	0			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13	0	◎児発管、主任、副主任が参加しています。	個々のモニタリングに参加することで、より深く個々に関わる意識が生まれてきています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	13	0	◎保護者を介したり、保育所等訪問もしているので担任や支援級の先生とも連携が取れています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	7	4	◎保護者を介して行っています。	主治医との連絡について周知する必要があります。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解を図っている	10	1	◎担当者会議への参加、保育所等訪問時に情報共有や相互理解を図っています。移行支援シートの作成も行っています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	11	0	◎移行支援シートを作成し、情報の提供を行っています。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9	1		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	9	◎行事(きょうだい児交流)等にて交流を行った。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	1	◎管理者、児発管が参加しています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	13	0	◎連絡帳でやりとりしたり、送迎時に情報共有を行っています。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	9	1	◎家族支援プログラムの研修を行ったり、個別面談、機能訓練の機会に行ったりしています。	◎家庭療育への般化を行う事ができています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	13	0	◎契約時に説明を行っています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13	0	◎個別面談を定期的に行ったり、送迎時にご相談をいただいたりしています。また、ご相談は職員間で共有し対策、対応を行っています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	6	◎保護者向けの研修や事業所の行事の後に交流の場を設けています。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	12	0	◎上席に報告し、迅速かつ適切な対応に努めている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	13	0	◎定期的におたより発行やInstagramの情報発信を行っています。手作りであたたかな内容になるように心掛けています。	
	35	個人情報に十分注意している	13	0	◎徹底しています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	13	0	◎小さな事にも目を配り、個々に合わせて手話、ジェスチャー、カード等を用いて配慮を行っています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	7	◎地域行事への参加、クリーン作業は行っています。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	12	0	◎マニュアルを策定しスタッフ間の周知を行っています。	◎定期的に研修を行い、より周知を図っていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	13	0	◎定期的に避難訓練を実施しています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13	0	◎県や事業所内外部の研修を実施し、適切な対応に努めています。対策検討委員会も設置しています。	◎定期的に研修を行い、より周知を図っていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	13	0	◎承諾書を作成し、ご説明を行っています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	11	0	◎保護者を介して対応を行っています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13	0	◎事例が発生するたびに事業所内で共有しています。	